

今月は共同作業所連絡会賛助会員・こぶし作業所・けやき作業所の後援会会員拡大月間です。お知り合いの方でまだこぶし・けやきの活動等紹介されていない方がおりましたらこぶし・けやきまで連絡していただければこぶしだより等資料をお送りしますので下記までご連絡下さい。

＜共作連賛助会員については＞
共作連とちぎ事務局（けやき）まで
＜各作業所後援会員については＞
けやき作業所 028-687-1040
あるいは
こぶし作業所 028-662-1911
までお願いします。

共作連賛助会員。
こぶし・けやき
後援会会員拡大に
御協力下さい。

★こぶしだより編集委員会からのお知らせ★

◎ご意見・ご感想がありましたらこぶし・けやきまでお願いします。

◎特集してほしい記事があればお知らせ下さい。

お悔やみ

去る十二月二十三日にけやき作業所デイサービスセンター主任 田島 勝信様のお父様田島 勝久様がお亡くなりになりました。

ご冥福をお祈りします。

社会福祉法人 こぶしの会

法人事務所・こぶし作業所

〒321-0902

栃木県宇都宮市柳田町1401

☎ 028-662-1911

FAX 028-662-1912

けやき作業所・デイサービスセンター

〒321-3304

栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244

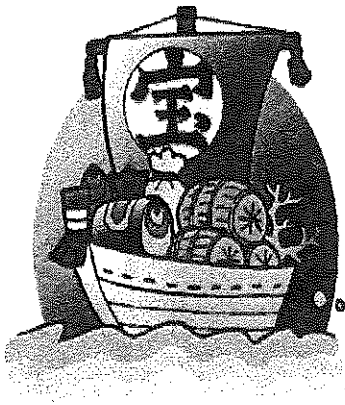
☎ 028-687-1040

FAX 028-677-5789

会も関わった宴会になるなど、盛り上がりました。しかし、その一方で、遠方への旅行ということや、予算が高めになったことで参加者が少なく、仲間どうし、保護者どうしの親睦の旅行という主旨からは、かけ離れたものになってしまったことは今後の課題として残りました。又、来年度は余裕を持って旅行プランを作成し、仲間、保護者も実行委員として参加できるような旅行実践を目指していく予定です。

それにしても、やはり日本海。魚は旨かったなあ。

けやき 東岡



第8回

こぶしの視点

社会復帰を目標に掲げて (成田)

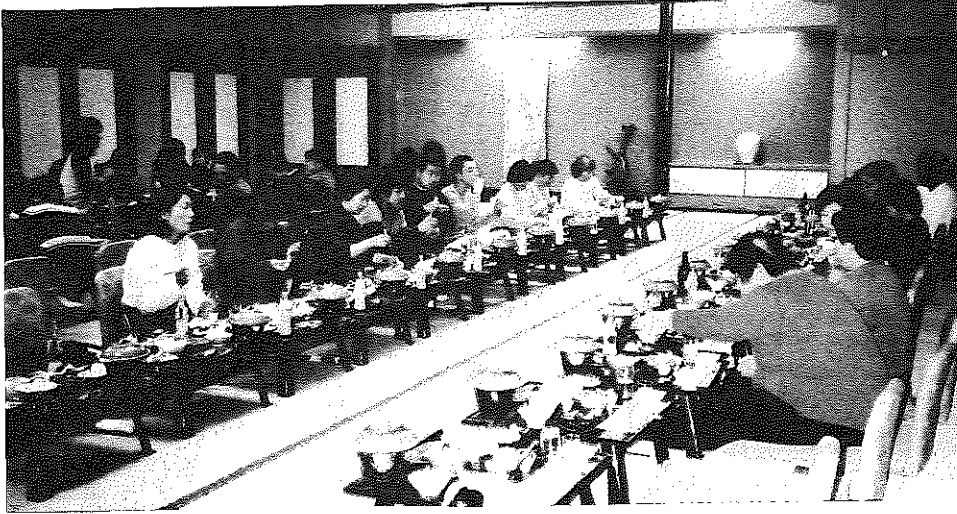
けやき作業所の仲間たちやこぶし作業所の仲間たち、特にデイサービスの仲間たちには社会復帰と言っても完全な社会復帰は難しいと思います。しかし、人生の一時でも働いたという経験があれば、その仲間の人生はそれなり充実した人生になるものではないかと思えます。そういうことの手助けをし、可能ならしめるのが職員の役割です。

非常に重い障害を持った仲間、また高齢になった仲間たちのデイサービス、社会復帰など及びもつかないと思われる中でも仲間の生きがいよこびというものを見つけるためにはどうすればいいかと奮闘しています。クッキーづくり、煎餅づくりと真剣に努力を一步一步しているようです。結果的に社会復帰へとつながらなくても……。それでも職員は、仲間の発達を信じて努力を惜しみません。

一方、こぶしのときわ荘、すずらんの家と二つのグループホームもスタートしました。地域で生活するはお金があるわけですが、年金だけではなかなかそれを全部賄うことはできません。給料が5千・1万という福祉的就労では、完全に独り立ちして生活していくには大変難しいのです。今、すずらんの家仲間たちは、実社会に入っていくと、一般企業への職場実習が始まりました。まだまだ実社会に足を1歩踏み入れたばかりですが、この先どんな壁にぶつかっていくとも、周りの人がそれを支え、乗り越えていくのは仲間自身ですので見守って行きたいです。

けやき 成田

コブシノシテン



入浴も皆で協力しあいながら行いました。夜景を見ながらの温泉はオツなものです。直井さん、宮田さんの介助もスムーズでした。皆さん日本海は見えたかな・・・

おいしいお料理にみんな満足しています けやき作業所

さて、メインをかざる日本海の幸の料理と、仲間自治会レク部による宴会がはじまりました。レク部の人は準備があり、あまりゆつくり食事とはいかなかったようですが、仲間（の一部）、保護者（大多数）、職員（殆ど）は酒も入ってすつかりリラククスし、仲間でも楽しめるようにレク部で工夫したクイズ大会に保護者の方も大喜び、時間もおしていたのですがビンゴゲームも行い、関本さん、信賀さんのプレゼント渡し、渡辺有紀さんの司会と仲間が大活躍の宴会でした。夜は話したい人は悩みや思っていることを話し二日目を迎えました。

二日目は晴天。この日も、イヨボヤ会館（瀬波は鮭の本場です。その鮭の博物館）、岩船鮮魚センター、喜多方ラーメンふぶき亭、と寄るところは多かったのですが、あわただしい中協力しあって、あまり時間の遅れもなく旅がすすみました。寝不足（でしょうか？）、昨日に比べる

と疲れが出て、車中で寝る人も多かったです（二台とも）。

二日目のもう一つのメインは、福島県の共作連加盟作業所として活躍しているパン屋「ピーターパン」の見学でした。見学希望の仲間の一部と職員だけの見学でしたが、けやき作業所のパンづくりには参考になることが多く、今後の新製品のために調理パンを買って研究しようという意気が上がりました。

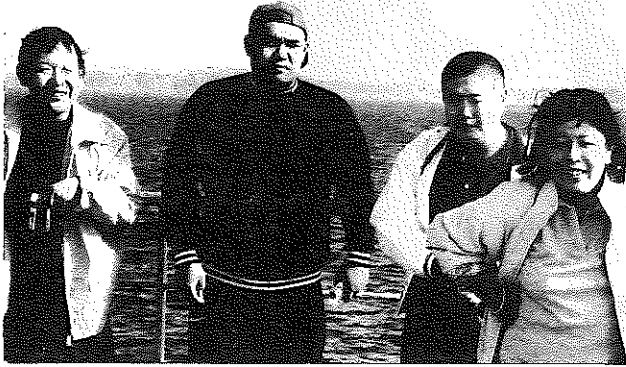
一方、その他の人達は、会津鶴ヶ城の休憩所にて城を眺めながらのおみやげさがしでした。コース別に行った二日目の後半でしたが、あとは一直線にけやきを目指し、すつかり暗くなつたけやきに無事到着しました。

今回は近場がつづいた昨年、一昨年に比べると遠い場所への旅行でしたが、寄る場所が多く、忙しいスケジュールにもかかわらず、集合時間も協力しあいながら守り、又、自治

きつと家に帰った日は、ぐっすり眠れたのではないでしょうか。私もぐっすりでしたから。

仲間と共に旅行を楽しめたこと、何事もなく無事に終えることができ、たことを嬉しく思います。そして、いつもとは違う、この日の仲間の姿、表情を大切にしたいと思います。また、今後も、この家族旅行を続け、楽しい旅行にするよう、職員一同がんばりたいと思います。

こぶし 京極



海ほたるにて 左から 亀田 智直さん、井沢 智紀さん

星野 健さん、小池 淳子さん
 旅”というので、新潟の北端、瀬波温泉を指すことになりました。

一日目は八時三十分にはけやき作業所を出発しました。となるところでしたがバスの到着が遅れ、仲間たちも「バスまだ？」と待ちきれないようす。中には、けやきの前を通過し

新潟方面に向かったけやき作業所の家族旅行の様子です。 寒くなかったのかな？

毎年恒例となった旅行。仲間たちも秋になると旅行の行き先を気にしはじめます。

一日目には猪苗代湖畔の“世界のガラス館”、昼食場所となった“猪苗代レークサイド観光”、“安田フラワーガーデン”と、あわただしくも観光旅行らしくなりました。磐越6P道では風雨ともに強くなり、けやきバスの運転は事のほかきつかったようでしたが、観光バスは余裕、余裕で走り、保護者のカラオケやガイドさん名人技のおかげですっかり盛り上がっていました。

“日本海の夕日”とはなりませんでしたが、宿墓場所の「はぎのや」は海の近くらしく空気のいいところでした。

ていった幼稚園バスに向かって「きた、きたー」という仲間も・・・

やっときた豪華な観光バスと我がけやきのバスを連れ、いざ、日本海へ。天気良かったのも束の間、那須サーピスエリアでは小雨。天気予報では晴れだったのですが・・・

十二月二十三日に行われ
たクリスマス会の風景！
次は何を歌うのかな？



左から 滝口 功一さん

新田 忠弘さん

こぶし作業所

家族旅行で・・・

十月二十八日、二十九日と
一泊二日で行われた家族旅
行の様子です。

まずは、こぶしから・・・

興奮、興奮、興奮。それは、普段
では見られない仲間の姿でした。指
折り数えて楽しみにしていた家族旅
行です。前夜は、眠れなかったとい
う仲間もいたくらいですから、どん
なに楽しみにしていたかが分かりま
す。

バスの中では、カラオケで盛り上
がり、仲間の自慢の声を聞かせても
らいました。同じ声しか聞こえてこ
なかったのは気のせいだったでしょ
うか・・・

休憩するたびに、ジュースやアイ
ス、菓子類を買っては口にする仲間
もいました。最初の目的地は横浜中
華街なのにこんなに食べて大丈夫か
な、そんな心配をよそにすべてペロ
リと食べてしまった仲間は、やつぱ
りすごいですね。

様々な場面で、たくさん仲間の笑
顔を見ました。それは、いつもこぶ
しで見える笑顔とはまた違った、とて
も輝いている笑顔です。夜の宴会で
は、歌を唄い、ダンスを踊り、仲間
は皆、からだいっぱい喜びを表現し
ていました。

こんなハプニングもあつたんです
よ。綺麗な女性の歌い手さんが、歌
を披露してくれたのですが、あまり
の美しさに、目がくらんだのでしょ
う。肩を組んで、一緒にステージで
唄った仲間もいたのです。満足げな
表情でしたそれから、あまりの興奮
に、壁に穴をあけてしまった仲間も
いました。ここだけの話です。



今年一年色々な事がありました けやき

♣ 作業班紹介 ♣

今回はけやき作業所

ニコニコパン屋さん

パン班班長小林秀子さんの共作連
なかまニュースに掲載された文章で
す。

「私たちにここパン屋さんでは、
菓子パン、主にアンパンを中心とし
ちヨコパンやクリームパン、うぐい

すパン、白あんパンを作っています。
市貝町役場や芳賀町役場、芳賀農協
へとパンの販売をしています。パン
の売れ行きは上々でおいしいとの評
判です。

私はパン屋の班長をしています。
他の仲間たちとも仲良く、楽しく、
そして心のこもったパンを毎日作っ
ています。パンの仕事は大変だけど
とても楽しいです。まだ食べていな
い方は、けやき作業所にここパン
屋さんのパンをぜひ一度食べてみま
せんか、一口食べただけでここにこ
笑顔でしあわせ気分まちがえなしで
すよ。」

今では、様々なところから注
文が来るようになり、忙しい
毎日を送っているパン班の紹
介です。

けやき作業所の自主製品第一弾昨
年八月に立ち上がったパン班は八名
の仲間と職員二名で構成されていま

す。この十二月に入って、班長小林
さんの入院・小網さんの職場実習へ
の参加と人手不足のきびしい状況が
続いています。

昨年のヤマト福祉財団主催「小規
模パワーアップセミナー」では、障
害のある人達に仕事を提供する
ことを目的に財団がタカギベーカーリー
の協力を経て「スワンベーカーリー」
を銀座でオープンさせたという話を
していた。ヤマト財団の小倉理事長
は「スワンベーカーリー」が軌道に乗
り、小規模作業所で希望があり立地4P
条件などが合えば、フランチャイズ
として全国展開していくことも考え
ていると言うことです。

けやき作業所にここパン屋さん
も今後地域の方々と手を結びながら、
芳賀の地で障害者・高齢者問題を含
めて考え、展開していけるような活
動を日々の実践の中で深めていける
ように努力していきたいと思えます。

けやき 渡辺

たいという短絡的指導では生まれてこないでしょう。何よりも本人の頑張り、発達したいという能動性を引き出すことが大切でしょう。

二千年の文化は人類共通の遺産です。それが障害の有無に関わらず平等に与えられることを願わずにいられません。

九十九年を振り返って

けやき作業所所長 高橋 温美

けやき作業所とけやき作業所デイサービスセンターが開所され二年目も半ばを迎えています。その間、仲間たちは二倍以上に増え、下請け受注が往年の五分の一に激減している中で給与はなんとか分場時代を維持しています。パン工場の頑張りがこれを支えています。また、新たな可能性に向けてリサイクル石けん工

場も始まりました。

後援会員の奮闘でグループホームもこの十月から開所し世話人の辛抱で仲間たちの新しい生活を創り出しつつあります。リストラ時代の新たな制度を駆使しながら就労する仲間を続々と送り出しています。そして何よりもうれしいのは家族後援会の力で少しづつ仕事らしい仕事環境・設備が形を整えつつあり、仲間たちの要求を受けとめようと頑張る職員集団の努力と相まって仲間たちが自立への意欲を高めている事実です。

障害の重い人たちの実践も地道な努力が続いています。仲間たちの二十四時間を通じた生活のサポートも努力を始めています。

また、強調したいのは、今年はやき作業所に対する地域からの期待の高まりが感じられたことです。在宅障害者の入所の相談や生活相談は飛躍的に増加し、関係機関との連携

で問題の解決を進めました。また、真岡地区の親の会が卒業後の進路の一つとしてけやき作業所の分場建設を進めているのもそのひとつです。さらに、先日芳賀町から廃校になる小学校を障害者のために利用しないかというお話がありました。これらの期待はまさに障害者・家族・後援会（地域の人たち）と一体になって障害を持つ人の豊かな生活と地域づくりに努力するけやき作業所の姿が地域に見え始めているからではないかと思えます。

この一年半、「仲間たちの意欲を創り出すのはよく準備された生活・労働環境と仲間を支える地域社会ではないのか。」という信念は少しずつ確信になりつつあります。生理的な部分での障害、そこから発生する能力の障害を規定するのは社会的障害（ハンディキャップ）です。ハンディキャップの克服と社会的条件整備に今年も誠意を持って取り組んでいきたいと思えます。



重度重複部 こぶし 鈴木

すし、また、そうしたとりくみも重要になつてくるとは思いません。しかし、仕事をするのが、生活への意欲や張りを持たせ生きがいにつながることに変わりはないのではないかと、ということと励まし合ったり、支え合ったりできる仲間集団、そして、その人の力を十分に発揮できる仕事（作業）が作り出せるか、見直すと検討を重ねて行かなければなりません。

カラオケを熱唱する住谷所長 家族旅行にて

2,000年の 年頭に思うこと

こぶし作業所所長 住谷 佳裕

今から二千年前の日本は、どんな有様だったか想像すると興味深いものがあります。壮大な建造物を建てるほどの文化、技術を持つ反面、一般民衆の生活はそれ程豊かだとは思われません。絶えず気候の変動、猛獣、寒さ、飢餓などの脅威にさらされていたのでしよう。

我々は、必ず一定の発達段階にある文化の中に生まれます。「人間は何のために生まれてきたのか」・・・難しい問いですが、「ゴリキーは」ど

ん底”の中で巡礼ルカの口を借り、「人間はより良いもののため生きていくんだよ」と云っています。先人の文化を受け継ぎ、それに幾ばくかのものを付け加え、子孫に引き渡していく。個人の生命は短い、人間の連綿とした文化の中に生き続ける事ができるわけです。

障害のある人もない人もこの点では変わりありません。人間として生まれてきたのは、この今の文化の真つ直中であつて、その文化を可能な限り吸収し、豊かな生活を送る権利を持つていて、社会はその権利を保障する義務を持つものなのです。障害者の発達という場合、この文化継承の義務が大切で、障害者のなかにある発達したいという願い（時にはそれが素直な形で表れないのでつい見逃してしまう事もあります）を大事にしていききたいと思えます。

その文化吸収は、社会適応主義の訓練や目の前の何か出来るようにし

“ミチさんの姿を通して”

十二年の在宅生活を送っていた坂田 ミチさんがけやきに通い始めてからの様子をまとめたものです。

今年の四月から、けやきデイサービスを一人の女性が利用することになりました。昭和六十三年、家事手伝いを理由にこぶし作業所通所から在宅に戻った人でした。

名前はミチさん。年齢五十八才。十二年ぶり会った彼女は、生まれたときからずっと一緒（こぶしにも一緒に通所）に暮らし心の支えにしてくれたお姉さんも亡くなり、また、家庭内の状況も変化したりと、つらく悲しいときも多く過ごしてきたのでしょうか、ふつくらした、むしろ小太りだった体は、二回りも、三回り

もほっそり小さくなっていました。また、白内障で視力も少し落ちていました。足元がふらつき、朝の散歩も思うように歩けません。でも、手を貸そうとしようものなら

「いんねよー」「だいたいだよ！わかつてるよ！」とその手を振り払い、一人で歩こうとするその頑固(?)さに、こぶし時代を知る私は何故かほっとしたのでした。

そんなわけで、日中何をすることも、なかなか手が出せず時を過ごすことが多かったのです。そんなある日、一人の職員がミチさんにエプロンをつけ、昔大好きだった針仕事を提供してみました。するとミチさんは「仕事すつか！」と、張り切りだしたので。エプロンをつけて「仕事をするんだ！」という意識が呼び戻されたかのようでした。「仕事しな

くちやだめだんべな」「ちゃんとしろよ」と、まわりの若い仲間に対して声を掛けながら（見えないはずなのに針に糸を通し）一生懸命の針仕事。今では、一枚の雑巾を縫い上げるのに、三日も四日も掛かり、時には一週間ということもありますが、「仕事をしなくちゃ給料もらえぬな、なあ」と、仲間や職員に話し掛け一心に雑巾と向かい合っているミチさんです。

散歩にも自ら参加、徐々に歩く距離を伸ばし皆と同じコースを歩けるようになってきました。「金もらったら、ジュース、買った」と、うれしそうに笑いながら、時には（いや、しょっちゅう）若い仲間を飛ばし針仕事に精を出す毎日です。

このミチさんの姿を通して、高齢になつてきたり、障害が重いということ、みんなと同じペースで仕事をしたり活動したりするのは無理なのではないかと思えることもありま

働こう障害者も 働けるんだオレたちも

こぶしだより

1999年

1月12日発行

発行

こぶしの会

宇都宮市柳田町1401

TEL 028-662-1911



後援会特集号

コーヒーはみかが!?



寒い中、温かいコーヒー販売をがんばるけやき作業所
喫茶部のなかまたちです!!

左から、関本 正子さん、広瀬 智也さん、東岡 歩さん

小林 フミ子さん、見目 アイ子さん、水沼 のぞみさん